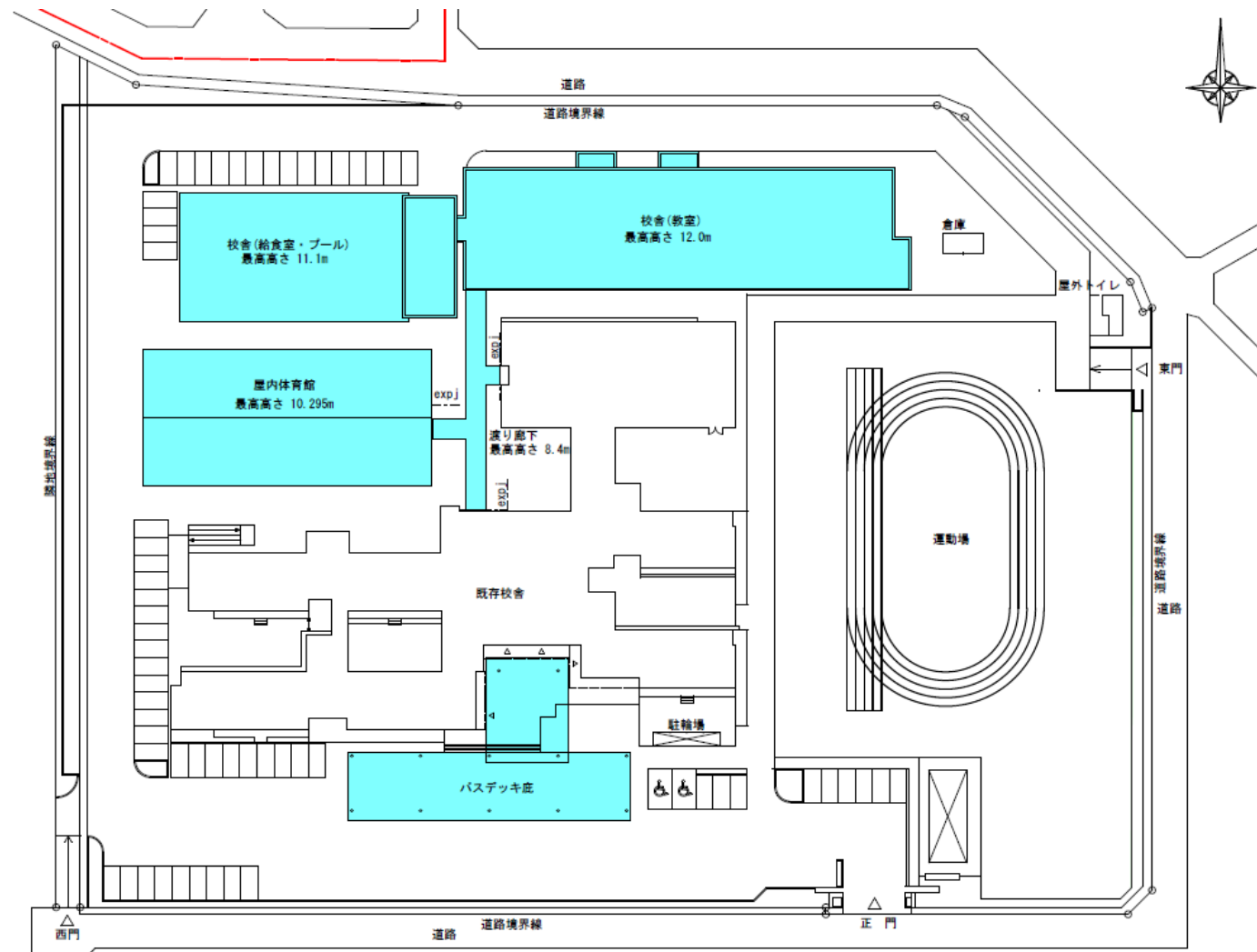


県東部地域特別支援学校（仮称）建設工事設計業務

〇アドバイス主旨

近隣の田園風景や住宅地と調和し、周辺に圧迫感を与えないように留意した設計とする。



(建設予定図)

1 建築物等に関するアドバイス

(1) 壁面の明度を落として圧迫感を軽減させる

全面に真っ白の壁を配置すると反射が目立ってしまうため、植樹の隙間に見え隠れするかたちで明度が7より低めのページュシステムの壁面を配置すると目立ちにくくなる。

なお、塗装では平滑な面となり光沢が出てしまうので、目立ちにくい色彩を選定すると良い。



(2) 建物のデザインを工夫する

壁一面を同色にするのではなく、建物の奥と手前で明度を変えたり、壁と柱の色を分けて建物のかたちで濃淡をつけると、ボリューム感を緩和することができる。

また、大きな窓面にルーバー等を設けると、近隣住民への視線の配慮になるだけでなく、角度によって見え方に変化を持たせることもできる。

2 外構等に関するアドバイス

(1) 舗装が単調にならないようにする

すべてアスファルト舗装にすると黒っぽさが多くなってしまいます。予算の都合上、すべてをインターロッキングにすることは難しいと思われるので、一部に配置したり、緑地を含ませたりすることで全面がアスファルト舗装にならないように工夫する。

また、バリアフリーの観点に留意し、段差や大きな傾斜が生じないように配慮する。



(2) 敷地を囲うフェンスを工夫する

フェンスの色は樹皮のようなダークブラウンやダークグレーとする。さらにそれがあまり目立たないように植物を絡ませてフェンス自体も見えにくくすると、高いフェンスを設けたとしても圧迫感を抑えることができる。

対象建築物の用途や利用者を踏まえ、植栽にも教育や療養につながる意味を持たせ、四季を五感で感じられるように匂いや触感のある植物を選ぶと良い。園芸療法士にも相談すると良い。



(3) シンボルツリーを何かのかたちで継承していく

シンボルツリーであった樹木は、移植しないのであれば、別の形で再利用するなどして、後世へ継承していくことが望ましい。

